

令和元年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立船中学校

1 評価期間 令和元年5月～令和2年1月

2 学校関係者評価委員

(委員長), (副委員長), 委員4名

3 評価規準

- 妥当である。 (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である)
 ○妥当でない。 (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。)
 ○判断することができない。

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点 B：良い・・・5点 C：課題がある・・・-5点
 D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

() 平成30年度

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

		自己評価	関係者評価
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	6.4 [↑] (5.5)	妥当である
(2)	学校の教育内容や実践を保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	6.2 [↑] (5.7)	妥当である
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	4.4 [↓] (5.5)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(1)	年2回の学校公開週間や、保護者アンケートの記述、生徒指導(いじめ)問題対策会議、学校関係者評価委員会、PTA運営委員会等を通して、保護者や地域住民の意見や要望の反映を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から継続して開催されている船岡中学校区民生委員・児童委員懇談会等も含め、今後も地域、保護者との連携充実に努めてほしい。 ・行事等を通して町の生涯学習課や社会福祉協議会との連携を図っているので、さらに各教科で地域人材の活用を充実させてほしい。 	
(2)	学校公開週間の設定を増やしたり、校内書きぞめ展や親子運動会、文化祭等の行事を公開したりするなど、開かれた学校づくりに努めている。学校便り、学年便り、学級便り、保健便り、図書館便り等を通して、学校の様子や生徒の活躍を発信している。		
(3)	引き渡し訓練や資源回収等、保護者が教育活動を理解し積極的な関わりが見られる。職場体験やキャリアセミナー、思春期教育、防災教育、ボランティアセンターの活動については、町の社会福祉協議会を中心に多くの地域の力を活用している。次年度に向けて「しばたっ子応援団」を各教科や総合的な学習等で計画的に活用していきたい。		

2. 「学力向上」と学習指導要領の趣旨の徹底

		自己評価	関係者評価
(4)	「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	4.8 [↓] (5.7)	妥当である
(5)	学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	4.8 [↓] (6.4)	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
<p>(4)授業のねらいの効果的な提示と振り返りの有効な設定を通して、「分かった、できた」を実感できる授業づくりを目指し、計画的な研究授業の実践と検討会の充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の完全実施に向けて、対話的な学びを導入した授業や年間指導計画の見直し、評価方法の研修を充実させていきたい。 <p>(5)授業内容につながる家庭学習の設定により、家庭学習の習慣化を図っているが、家庭学習の内容や取り組む時間が十分ではない生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の手引き」や定期考査前の学習計画を通して、勉強の仕方を指導・支援している。 ・話をしっかり聞く力、考える力、自分の考えをまとめる力を育成するために、授業における学習規律を徹底し、主体的な学習につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の多忙化により、教材研究の時間が確保できないことも課題ではないか。 ・新学習指導要領実施に向けた対話的な学びや、時代や社会を見据えICTを活用した授業の充実に努めてほしい。 ・家庭学習の取組に関しては、課題の質や量を検討するとともに、家庭との連携が必要である。

3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

	自己評価	関係者評価
<p>(6) 「道德の時間」の実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道德的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道德的実践意欲の向上に努めている。</p>	5. 8 [↑] (4. 3)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
<p>(6)道德の授業の時間を確保し、確実に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに、学級担任以外の教員や支援員との協働による授業づくりを行うなど生徒の意欲を高める工夫と改善に努めている。 ・今年度は、道德の評価について道德教育推進教師が中心となり、年度当初から共通理解を図りながら実践を積み重ねてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の中には、モラルや常識に欠けている人もいるので、教え込むことも必要ではないか。中学校の3年間かけて身につけさせていってほしい。 ・人権教室と連携して、いじめ等について考える授業を今後も展開していってほしい。 	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

	自己評価	関係者評価
<p>(7) 「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。</p>	5. 6 ⁻ (5. 5)	妥当である
<p>(8) 児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。</p>	6. 0 ⁻ (6. 1)	妥当である
<p>(9) 児童生徒に自己の特性を理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。</p>	5. 4 [↓] (6. 1)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
<p>(7)生活記録ノートや「学校生活アンケート（いじめアンケート）」、「観察」、「チャンス相談」等を活用し、生徒の様子について適切に捉え、早期対応に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員の信頼関係の構築や自己肯定感の醸成を目指し、自他共に尊重し合う集団づくりに努めている。 <p>(8)PTA総会・学年PTA、各種便り等を通して、生徒指導方針への理解と協力を推進し、家庭と信頼関係を築いて生徒指導に当たるように努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や部活動、各種行事に本気で取り組む生徒を育成するために、全職員で生徒の良さを認め、褒めて、伸ばす指導に努めている。 <p>(9)1学年の農業体験学習やキャリアセミナー、2学年における職場体験学習や上級学校調べ、3学年における修学旅行を中心としたキャリア教育を推進している。おもに総合的な学習の時間を中心として、3年間で身に付けたい力を整理し、体験を通して課題を見つけ追求していく学習を実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活記録ノートを欠かさず見てコメントを記入するなど、一生懸命取り組んでいる効果が表れていると感じる。生徒との信頼関係の構築に今後も努めてほしい。 ・部活動や各種行事での生徒の活躍が見られた。特に部活動では、県大会や東北大会等への出場を果たし、子どもたちの自信につながっている。子どもたちの頑張りを今後も伸ばしていってほしい。 ・町の生涯学習課との連携が図られており、キャリア教育が充実している。今後も3年間を見通した体験学習の充実に努めてほしい。 	

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	関係者評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」等を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	7. 0 - (7. 0)	妥当である
(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施して児童生徒の防災意識を育てている。	7. 8 ↓ (8. 2)	妥当である
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	6. 0 ↓ (6. 6)	妥当である
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	5. 6 ↓ (6. 3)	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
<p>(10)「防犯教室」や自転車通学者を対象とした「安全教室」、携帯電話による「情報モラル教室」、「薬物乱用防止教室」を、計画的に実施している。自転車の乗り方については、集会時以外でも随時生徒への指導・徹底に努めている。</p> <p>(11)今年度も学区内の小学校と連携し、合同の引き渡し訓練を実施した。また、町社会福祉協議会と連携し、防災グッズづくりなどの防災教室を各学年で実施した。各訓練や、防災学習など全体的に真面目に取り組む姿勢が見られる。今後はさらに防災意識の向上を目指して取り組んでいきたい。台風19号による避難所開設時の積極的な関わりや、他施設でのボランティア活動への参加、募金の呼びかけ等、「共助」の意識の向上を感じている。今後はその良さをさらに伸ばしていきたい。</p> <p>(12)生徒指導部を中心に、毎日の下校指導と地区巡視を行っている。長期休業中は、PTA校外指導委員会とともに計画的に巡回活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、保護者や関係機関への連絡を早急に行い、被害の拡大防止に努めた。 <p>(13)保健体育の授業と部活動を中心に、全職員で指導に当たっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅伝練習時に体力づくりに参加する部活動が多く、目標を持って意欲的に活動している。生徒会主催の部活動対抗駅伝大会には、吹奏楽部や美術・写真部など文化部の生徒も参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と同日に引き渡し訓練を行い、小学校や保護者との連携を図っているので継続することが必要である。 ・自転車の乗り方については、安全教室の他に日頃からの指導を徹底し、命を守るための指導を充実させてほしい。 ・防災訓練の中に、不審者対策の訓練を計画してほしい。池田小事件を教訓に、生徒登校後の施錠や教師によるさすまたの訓練を行うなど、安全な教育環境に努めてほしい。

6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	特別支援の指導体制が整っており、特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導を行っている。	4. 6 ↓ (5. 2)	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
<p>(14)町の特別支援教育支援員や、自立支援相談員、子どもの心のケアハウス相談員の配置により、支援を要する生徒へのきめ細やかな対応を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒や集団不適応生徒への対応として、学習室を設置し活用している。学習室の利用の仕方を明確にし、担任・教科担任・支援員・SCとの連携を推進しながら、支援体制の充実に努めている。 ・教育相談部会を月1回開催し、各学年の状況を互いに把握し、解決に受けた対応策を確認している。必要に応じてケース会議を開きSCの他、行政など関係機関との連携を図っている。 ・通常学級内のグレーゾーンの生徒への対応が難しく、SCや支援員を入れた特別支援教育についての校内研修を充実させ、共通理解を図っていく必要がある。 ・小学校から引き継いだ不登校児童生徒個票を活用しているが、今後も小中の連携を推進し、情報共有と指導体制の充実に務めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のグレーゾーンの生徒や、不登校生徒等、実態の把握に努め、行政の関係機関と連携しながら個に応じた支援を今後も継続してほしい。

7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	3. 6 - (3. 6)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(15)	ALTの活用や、各教科において自国文化や他国文化の理解につなげる指導の充実を図っていききたい。次年度は、SAKURA PROJECTに向けた放課後英語楽交への参加についてさらに呼びかけていきたい。	・ALTや放課後英語楽交などを有効に活用し、国際理解教育を進めてほしい。	

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	4. 0 - (3. 8)	妥当である
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	5. 8 - (6. 1)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(16)	視聴覚機器や情報機器について、積極的に活用している。特に電子黒板については、教科の指導を中心に活用している。電子黒板やタブレット等、すべての教員が有効に活用するための情報共有を徹底していききたい。	・タブレット等を有効に活用し、生徒の理解を深める授業づくりにつなげてほしい。	
(17)	12月から図書司書の勤務態勢が週2回から週5日に変わり、図書室の運営がさらに充実している。 ・図書委員会や図書司書が新書等を紹介するなど、読書の習慣作りに努めている。本の貸し出し数については、1年生が圧倒的に多い。生徒の読書に対する興味・関心を高め、さらなる読書活動の充実に務めたい。	・学年やクラスによって、読書量に差が出ているので、読書の習慣づくりに努めてほしい。	

9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上

		自己評価	関係者評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	4. 8 ^ (4. 1)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(18)	夏休みには、グラウンド等の整備を生徒が中心となって行っていった。特別支援学級の生徒が中心となり、昇降口前や来賓玄関前の花の管理を行っている。今後は委員会活動を中心に緑化活動を充実させていきたい。 ・校地内の高木や、道路沿いの樹木に関しては、状況を確認しながら随時教育委員会と相談し、剪定や伐採などの対応を行った。	・道路沿いの樹木については、安全面にも関わるため、教育委員会と相談し今後も計画的に剪定や伐採を行う必要がある。 ・グラウンドは保体の授業や部活動で使用するため、整備は重要である。教育委員会と相談の上、環境整備を進めてもらいたい。	

10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	関係者評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	5.4 [↑] (5.0)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(19)	ベテラン教員を中心に協働による授業づくりを行った。また、文系教科、理数系教科、技能教科ごとに研究授業を行い、検討会を行うことで指導力向上を図っている。今後は、普通の授業の中で気軽に授業提案を行い、互いに見合う体制を作ることで、授業改善につなげていきたい。 ・職員会議での3分間プレゼンテーションや、参加した研修の伝講を通して、教員の学び合いを深めていった。	・若手教員が増えていく中、校内における研修は重要である。今後も継続し、良い授業づくりにつなげてほしい。	

11. その他

		自己評価	関係者評価
(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	6.2 ⁻ (6.1)	妥当である
(21)	子供たちは充実した学校生活を送っている。	4.6 [↓] (5.7)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(20)	休み時間や放課後等、各教員が機会をつくって生徒との関わりを増やし、温かい声かけや励ましを通して、生徒理解に努めている。 ・生活記録ノートの記述を通して、生徒の家庭生活の様子や悩み等を確認し、家庭と連携しながら、早期対応に努めている。	・先生方は、時間を見つけながら生徒と関わったり、生活記録ノートでのやりとりを行ったりしており、生徒理解に十分努めていると感じる。	
(21)	部活動を通して、目標に向かって困難を乗り越えやり抜く力や、協力する力が身に付き、学校生活の充実につながっている生徒が増えている。 ・生徒会活動を活発に行ったり、有志や部活動単位でボランティア活動に熱心に取り組んだりするなど、学校をよりよくするために主体的に活動しようとする姿勢が育成されてきている。		

12. 教育目標について

		自己評価	関係者評価
(22)	教育目標「豊かな品性・強い心身・確かな知性をそなえた生徒の育成」が、学校の教育活動において具現化されている。	5.8 [↑] (5.2)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(22)	それぞれの活動の目的や内容を確認しながら、教育目標が教育活動に具現化されるように、教職員が意識して取り組むことが大切であるととらえている。次年度に向けて、教育目標の具現化を図るために、教職員の意識の向上とともに、行事の見なおしを行いながら教育課程の作成に当たりたい。	・教育目標の達成に向けて、今後も校長先生のリーダーシップのもと教育活動に取り組んでもらいたい。	

◆その他:学校関係者による主な意見

・先生方の自己評価は、厳しい傾向があるのではないかと感じます。様々な学校課題に対して、対応を考えしっかり取り組んでいると思う。数字にとらわれることなく、自信を持ってこれからも子どもたちの成長のために尽力してほしい。